



TITLE:

# 有理曲面上のAmpleベクトル束 (代数幾何とその近傍)

AUTHOR(S):

細尾, 敏男

---

CITATION:

細尾, 敏男. 有理曲面上のAmpleベクトル束 (代数幾何とその近傍). 数理解析研究所講究録 1976, 273: 98-110

ISSUE DATE:

1976-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/105955>

RIGHT:

# 有理曲面上の ample ベクトル束

名大 理 細尾敏男

$X$  を代数的閉体  $k$  上定義された非特異射影的多様体、 $E$  を  $X$  上のベクトル束。  $d = \dim X$ 、  $r = \text{rank } E$  とおく。次の問題を考える。

問題  $E$  が ample となるための良い numerical な充分条件を求めよ。

これに関して以下の事実が知られている。

① (Nakai)  $r=1$  つまり  $E=L$ ; 直線束のとき。

$L$  : ample  $\Leftrightarrow$  任意の  $X$  の integral closed subscheme  $Y$  に対し  $(G(L)^s, Y) > 0$  が成立。ここで  $s = \dim Y$ 。

② (Atiyah)  $d=1$  つまり  $X=C$ ; 曲線のとき。

$E$  が indecomposable ならば  $\exists N = N(r, g), \deg C_1(E) \geq N$   
 $\Rightarrow E: \text{ample}$ . ここで  $g$  は  $C$  の種数。

定義  $H$  を  $X$  の ample な因子とする。このとき  $E$  が  $H$ -stable  
 であるとは、 $E$  の任意の部分連接層  $F (\neq 0 \text{ かつ } \text{rank of } F < r)$  に対して

$$\frac{(C_1(F), H^{d-1})}{\text{rank of } F} < \frac{(C_1(E), H^{d-1})}{r}$$

が成立すること。

③ (Hartshorne)  $X = \mathbb{C}$ : 曲線,  $k = \mathbb{C}$ : 複素数体のとき。

$E$  が stable ならば,  $E: \text{ample} \Leftrightarrow \deg E > 0$ .

定義  $X$  が曲面のとき  $\Delta(E) = -C_2(\text{End } E) = (r-1)C_1(E)^2 - 2rC_2(E)$  とおく。  
 (任意の  $X$  上の直線束  $L$  に対して  $\Delta(E \otimes L) = \Delta(E)$  である)

④ (Hosoh)  $H$  が射影平面  $\mathbb{P}^2$  の超平面,  $E$  が rank 2 の  $H$ -stable ベクトル束のとき

$(C_1(E), H) \geq -\frac{1}{2}\Delta(E) \Rightarrow E: \text{ample}$ .

ここでは④の事実を高い rank 及び有理繊維曲面上に拡張し

た結果を述べ、以下の章でその証明を与える。

$\mathbb{P}^2$ 上のrank  $r$ のベクトル束  $E$ に対して、直線束  $L$ が存在して  $G_1(E \otimes L) = \alpha H$  ( $-r+1 \leq \alpha \leq 0$ ) とできる。 $\alpha(E) = \alpha$  とおく。

定理1  $E$  が  $\mathbb{P}^2$ 上のrank  $r$ の  $H$ -stable ベクトル束のとき

$$(G_1(E), H) \geq -\frac{1}{2} \Delta(E) + \frac{(\alpha+2r)(2-\alpha-r)}{2} \Rightarrow E: \text{ample}.$$

ここで  $\alpha = \alpha(E)$ 。

非負整数  $n$  に対して、 $\Sigma_n = \mathbb{P}(\mathcal{O}_{\mathbb{P}^1}(-n) \oplus \mathcal{O}_{\mathbb{P}^1})$  とおく。 $M$  を  $\Sigma_n$  の minimal section (つまり  $\Sigma_n$  の section であって  $M^2 = -n$  となるもの)。  $N$  を  $\Sigma_n$  の fibre とする。整数の組  $(\alpha, \beta)$  に対して、 $\Sigma_n$  上の因子  $\alpha(M+nN) + \beta N$  を  $H_{\alpha, \beta}$  と記す。 $((H_{\alpha, \beta}, M) = \beta, (H_{\alpha, \beta}, N) = \alpha$  であり、 $H_{\alpha, \beta}; \text{ample} \Leftrightarrow \alpha > 0, \beta > 0, |H_{\alpha, \beta}|$ ; base point free  $\Leftrightarrow \alpha \geq 0, \beta \geq 0$  である。)

$\Sigma_n$  上のrank  $r$ のベクトル束  $E$  に対して直線束  $L$  が存在して  $G_1(E \otimes L) = aM + bN$  ( $-r+1 \leq a, b \leq 0$ ) とできる。 $a(E) = a, b(E) = b$  とおく。

定理2  $E$  が  $\Sigma_n$  上のrank  $r$ の  $H_{\alpha, \beta}$ -stable ベクトル束のとき

$$(G_1(E), N) \geq -\frac{1}{2} \Delta(E) + c(a, b, r, n) + a$$

$$(G_1(E), M) \geq -\frac{1}{2} \Delta(E) + c(a, b, r, n) + b - a n$$

$\Rightarrow E$ : ample. ここで  $a = a(E)$ ,  $b = b(E)$ ,  $c(a, b, r, n) = \frac{1}{2}an(a+r) - r(a+b+ab+r-2)$ .

§1 定理1の証明。

補題 (1.1)  $E$  を  $\mathbb{P}^2$  上の rank  $r$  の  $H$ -stable ベクトル束で、 $C_1(E) = a(E)H$  なるものとする。次の (1) - (4) が成立。

$$(1) \ h^0(\mathbb{P}^2, E) = 0$$

$$(2) \ h^2(\mathbb{P}^2, E(m)) = 0 \quad m \geq 0$$

$$(3) \ h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) \leq h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1)) \quad m \geq 1$$

(4)  $m \geq 1$  に対して  $h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) = h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1))$  が成立すれば、 $E(m)$  は global sections で生成される。

(ここで  $E(m) = E \otimes \mathcal{O}_{\mathbb{P}^2}(mH)$ )

(証明) (1), (2) は  $E$  の stability と Serre duality より明らか。 (3)  $F_m$  を  $E(m)$  の部分層で  $H^0(\mathbb{P}^2, F_m) = H^0(\mathbb{P}^2, E(m))$  と  $E(m)/F_m$  が torsion free が成立する最小のものとする。(  $F_m$  は generically に global sections で生成されている。 ) 完備線型系  $|H|$  の general member  $\ell$  で  $F_m|_\ell$  が locally free,  $0 \rightarrow F_m(-1) \rightarrow F_m \rightarrow F_m|_\ell \rightarrow 0$  が完全となるものを取る。  $\ell$  は射影直線に同型であるから、 $F_m|_\ell$  は global sections で生成され、 $h^1(\ell, F_m|_\ell) = 0$  であるとしてよい。そこで次の完全列を考える。  
 $\cdots \rightarrow H^1(\mathbb{P}^2, F_m(-1)) \rightarrow H^1(\mathbb{P}^2, F_m) \rightarrow H^1(\ell, F_m|_\ell)$

$\rightarrow H^2(\mathbb{P}^2, F_m(-1)) \rightarrow H^2(\mathbb{P}^2, F_m) \rightarrow 0$ .  $h^1(\mathcal{L}, F_m|_{\mathcal{L}}) = 0$  である

から  $h^1(\mathbb{P}^2, F_m) \leq h^1(\mathbb{P}^2, F_m(-1))$ ,  $h^2(\mathbb{P}^2, F_m) = h^2(\mathbb{P}^2, F_m(-1))$ .

又、 $h^2(\mathbb{P}^2, E(m)) = h^2(\mathbb{P}^2, E(m-1)) = 0$  であるから

$$\begin{aligned} & h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) - h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1)) \\ &= h^0(\mathbb{P}^2, E(m)) - h^0(\mathbb{P}^2, E(m-1)) - (\chi(\mathbb{P}^2, E(m)) - \chi(\mathbb{P}^2, E(m-1))) \\ &= h^0(\mathbb{P}^2, F_m) - h^0(\mathbb{P}^2, F_m(-1)) - (r + (C_2(E(m)), H)) \\ &= h^1(\mathbb{P}^2, F_m) - h^1(\mathbb{P}^2, F_m(-1)) + (\chi(\mathbb{P}^2, F_m) - \chi(\mathbb{P}^2, F_m(-1))) - \cancel{(r + (C_2(E(m)), H))} \\ &\quad - (r + (C_2(E(m)), H)) \\ &\leq (r' + (C_2(F_m), H)) - (r + (C_2(E(m)), H)) \end{aligned}$$

$$(r' = \text{rank of } F_m) \quad r' \leq r, \quad (C_2(F_m), H) \leq (C_2(E(m)), H)$$

であるから  $h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) \leq h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1))$  が出る。

(4)  $h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) = h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1))$  とすると、上の式から、

$E(m) = F_m$ 。そこで  $|H|$  の general member  $\mathcal{L}$  を取れば、

$E(m)|_{\mathcal{L}}$  は global sections で生成され  $h^1(\mathcal{L}, E(m)|_{\mathcal{L}}) = 0$  となる。そこで次の完全列を考える。  $\cdots \rightarrow H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow H^0(\mathcal{L}, E(m)|_{\mathcal{L}}) \rightarrow H^1(\mathbb{P}^2, E(m-1)) \rightarrow H^1(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow H^1(\mathcal{L}, E(m)|_{\mathcal{L}}) \rightarrow \cdots$ 。  $h^1(\mathcal{L}, E(m)|_{\mathcal{L}}) = 0$ ,  $h^1(\mathbb{P}^2, E(m)) = h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1))$  から  $H^1(\mathbb{P}^2, E(m-1)) \rightarrow$

$H^1(\mathbb{P}^2, E(m))$  は同型、よって  $H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow H^0(\mathcal{L}, E(m)|_{\mathcal{L}})$  は全射。 $E(m)|_{\mathcal{L}}$  は global sections で生成されているから  $\mathcal{L}$  の任意の closed point  $x$  に対して  $H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow E(m) \otimes \mathcal{O}_{\mathcal{L}}(x)$  も全射となる。そこで  $\mathbb{P}^2 - \mathcal{L}$  の任意の closed point  $y$  に対して

して、 $\mathcal{H}$  を通る  $|H|$  の member  $\mathcal{L}'$  を取り  $\{x\} = \mathcal{L} \cap \mathcal{L}'$  とする。  
次の可換図式を考える。

$$\begin{array}{ccc} H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) & \longrightarrow & E(m) \otimes \mathcal{L}(x) \\ & \searrow \quad \swarrow & \uparrow \\ & H^0(\mathcal{L}', E(m)|_{\mathcal{L}'}) & \end{array}$$

$H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow E(m) \otimes \mathcal{L}(x)$  は全射であるから  $H^0(\mathcal{L}', E(m)|_{\mathcal{L}'}) \rightarrow E(m) \otimes \mathcal{L}(x)$  も全射。よって  $E(m)|_{\mathcal{L}'}$  は global sections で生成される。このことから、上と同様にして  $H^0(\mathbb{P}^2, E(m)) \rightarrow E(m) \otimes \mathcal{L}(y)$  が全射が出る。ゆえに中山の補題により  $E(m)$  は global sections で生成される。

系 (1.2)  $E$  を補題 (1.1) のようにとする。このとき  $E(-X(\mathbb{P}^2, E) + 2)$  は ample。

(証明) (1.1) の (1), (2) から  $h^0(\mathbb{P}^2, E) = h^2(\mathbb{P}^2, E) = 0$ 。よって  $h^1(\mathbb{P}^2, E) = -X(\mathbb{P}^2, E)$ 。これを  $C$  とおく。(1.1) の (3) から  $C = h^1(\mathbb{P}^2, E) \geq h^1(\mathbb{P}^2, E(1)) \geq \dots \geq h^1(\mathbb{P}^2, E(C)) \geq h^1(\mathbb{P}^2, E(C+1)) \geq 0$ 。よって  $1 \leq m \leq C+1$  なる整数  $m$  が取れて  $h^2(\mathbb{P}^2, E(m)) = h^1(\mathbb{P}^2, E(m-1))$  となる。(1.1) の (4) により  $E(m)$  は global sections で生成される。 $C+2 > m$  であるから  $E(C+2)$  は ample。

(定理 1 の証明)  $E$  を定理 1 のようにとする。 $\mathbb{P}^2$  上の直

線束  $L$  が取れて、 $E' = E \otimes L$  に対して  $C_1(E') = aH$  とできる。系 (1.2) より、 $E'' = E'(-\chi(\mathbb{P}^2, E') + 2)$  は ample。  $\mathbb{P}^2$  上の直線束  $L'$  を取って  $E = E'' \otimes L'$  とすれば、簡単な計算により  $(C_1(E''), H) = -\frac{1}{2}\Delta(E) + \frac{(a+2r)(2-a-r)}{2}$  となるから、定理 I の条件より、 $(C_1(L'), H) \geq 0$ 。よって  $L'$  は global sections で生成される。ゆえに  $E$  は ample。

## §2 定理 2 の証明。

補題 (2.1)  $E$  を  $\Sigma_m$  上の rank  $r$  の  $H_{\alpha, \beta}$ -stable ベクトル束で、 $C_1(E) = a(E)M + b(E)N$  なるものとする。次の (1), (2) が成立。

$$(1) \ h^0(\Sigma_m, E) = 0$$

$$(2) \ h^2(\Sigma_m, E(D)) = 0, \ D \text{ は } \Sigma_m \text{ 上の effective な因子。}$$

(証明)  $E$  の stability と Serre duality より明らか。

補題 (2.2)  $E$  を  $\Sigma_m$  上の rank  $r$  の  $H_{\alpha, \beta}$ -stable ベクトル束で  $C_1(E) = aM + bN$  ( $a \geq a(E)$ ,  $b \geq b(E)$ ) なるものとする。  $F$  を  $E(H_{1,1})$  の部分層で  $H^0(\Sigma_m, F) = H^0(\Sigma_m, E(H_{1,1}))$  と  $E(H_{1,1})/F$  が torsion free が成立する最小のものとする。次の (1), (2) が成立。

$$(1) \ r' = \text{rank of } F < r \text{ ならば } h^1(\Sigma_m, E(H_{1,1})) < h^1(\Sigma_m, E) \\ \text{又は } h^1(\Sigma_m, E(H_{1,0})) < h^1(\Sigma_m, E).$$

$$(2) \ r' = r \text{ (つまり } E(H_{1,1}) \text{ が) generically に global sections で}$$



生成される) ならば  $h^1(\Sigma_n, E(H_{1,1})) \leq h^1(\Sigma_n, E)$ . さらに、 $h^1(\Sigma_n, E(H_{1,1})) = h^1(\Sigma_n, E)$  ならば  $E(H_{1,1})$  は global sections で生成される。

(証明) (i)  $C_1(E(H_{1,1})) = uM + vN$ ,  $C_1(F) = u'M + v'N$  とおくと、 $E$  の stability から  $\beta u' + \alpha v'/r' < \beta u + \alpha v/r$ . ところで  $\alpha > 0$ ,  $\beta > 0$ ,  $u > 0$ ,  $v > 0$ ,  $r' < r$  だから  $u' < u$  又は  $v' < v$  を得る。そこで次の (i), (ii) を示したい。(i)  $u' < u$  ならば、 $h^1(\Sigma_n, E(H_{0,1})) < h^1(\Sigma_n, E)$ 、(ii)  $v' < v$  ならば、 $h^1(\Sigma_n, E(H_{1,0})) < h^1(\Sigma_n, E)$ 。(i)  $u' < u$  とする。 $\ell$  を  $|H_{0,1}|$  の general member で  $F|_\ell$  が locally free,  $0 \rightarrow F(-H_{1,1}) \rightarrow F(-H_{1,0}) \rightarrow F(-H_{1,0})|_\ell \rightarrow 0$  が完全となるものとする。 $\ell$  は  $\Sigma_n$  の fibre であるから、射影直線に同型、又  $F$  は generically に global sections で生成されるから、 $F|_\ell$  は global sections で生成されるとしてよい。ところで、このとき  $(-H_{1,0}, \ell) = -1$  だから、 $h^1(\ell, F(-H_{1,0})|_\ell) = 0$ 。そこで次の完全列を考える。 $\cdots \rightarrow H^1(\Sigma_n, F(-H_{1,1})) \rightarrow H^1(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) \rightarrow H^1(\ell, F(-H_{1,0})|_\ell) \rightarrow H^2(\Sigma_n, F(-H_{1,1})) \rightarrow H^2(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) \rightarrow 0$ 。 $h^1(\ell, F(-H_{1,0})|_\ell) = 0$  であるから、 $h^1(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) \leq h^1(\Sigma_n, F(-H_{1,1}))$ ,  $h^2(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) = h^2(\Sigma_n, F(-H_{1,1}))$ 。よって

$$\begin{aligned} & h^1(\Sigma_n, E(H_{0,1})) - h^1(\Sigma_n, E) \\ &= h^0(\Sigma_n, E(H_{0,1})) - h^0(\Sigma_n, E) - (\chi(\Sigma_n, E(H_{0,1})) - \chi(\Sigma_n, E)) \end{aligned}$$

$$= h^0(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) - h^0(\Sigma_n, F(-H_{1,1})) - (r + (C_2(E(H_{0,1})), H_{0,1}))$$

$$= h^1(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) - h^1(\Sigma_n, F(-H_{1,1})) + (\chi(\Sigma_n, F(-H_{1,0})) - \chi(\Sigma_n, F(-H_{1,1})))$$

$$- u \leq u' - u < 0. \quad (ii) \quad u' < u \text{ とする。} \ell \text{ を } |H_{1,0}| \text{ の general member とすると、} \ell \text{ は } \Sigma_n \text{ の section したがって射影直線に同型、} \chi(-H_{0,1}, \ell) = -1 \text{ であるから } h^1(\Sigma_n, E(H_{1,0})) < h^1(\Sigma_n, E) \text{ は (i) とほとんど同様にして得られる。}$$

(2) (2.1) の (3), (4) とほとんど同様。

系 (2.3)  $E$  を (2.1) のとうりとする。このとき  
 $E((- \chi(\Sigma_n, E) + 2)H_{1,1})$  は ample。

(証明) (2.1) から  $h^1(\Sigma_n, E) = -\chi(\Sigma_n, E)$ 。これを  $c$  とおく。  
 (2.2) の (1) から 整数  $p \geq 0, \ell \geq 0$  が存在して  $E' = E(H_{p,\ell})$  に対し  
 $h^1(\Sigma_n, E') \leq c - (p + \ell)$ ,  $E'(H_{1,1})$  は generically に global sections  
 で生成される。  $c' = h^1(\Sigma_n, E')$  とおく。(2.2) の (2) から、  

$$c' = h^1(\Sigma_n, E') \geq h^1(\Sigma_n, E'(H_{1,1})) \geq \cdots \geq h^1(\Sigma_n, E'(c'H_{1,1}))$$

$$\geq h^1(\Sigma_n, E'((c'+1)H_{1,1})) \geq 0.$$

よって  $1 \leq m \leq c' + 1$  なる整数  $m$  が取れて  $h^1(\Sigma_n, E'(mH_{1,1})) = h^1(\Sigma_n, E'((m-1)H_{1,1}))$  となる。(2.2) の (2) より  $E'(mH_{1,1})$  は global sections で生成される。よって  $E'((c'+2)H_{1,1})$  は ample。  
 ところで  $E((c+2)H_{1,1}) = E'((c'+2)H_{1,1}) \otimes \mathcal{O}_{\Sigma_n}(H_{p,\ell} + (c - (p + \ell) - c')H_{1,1})$  であり  $c - (p + \ell) - c' \geq 0$  であるから、 $E((c+2)H_{1,1})$  は ample。

(定理2の証明)  $E$  を定理2のとうりとする。 $\Sigma_n$ 上の直線束  $L$  が取れて、 $E' = E \otimes L$  に対して  $C_1(E') = aM + bN$  とできる。 $(2.3)$  より  $E'' = E'(\otimes (\chi(\Sigma_n, E') + 2)H_{1,1})$  は ample。整数  $p, q$  を取って  $E = E''(H_{p,q})$  とすれば、簡単な計算により  $(C_1(E''), N) = -\frac{1}{2}\Delta(E) + C(a, b, r, n) + a$ 、 $(C_2(E''), M) = -\frac{1}{2}\Delta(E) + C(a, b, r, n) - aM + b$  となるから、定理2の条件より、 $p \geq 0, q \geq 0$ 。よって  $\mathcal{O}_{\Sigma_n}(H_{p,q})$  は global sections で生成される。ゆえに  $E$  は ample。

§3 最後に、 $\mathbb{P}^2$ 上の  $H$ -stable ベクトル束の例を挙げて、定理1が best possible であることを示そう。

補題(3.1)  $E$  を  $\mathbb{P}^2$ 上の  $\text{rank } r$  の  $H$ -stable ベクトル束とする。 $C_1(E) = H$  または  $-H$  ならば  $C_2(E) \geq r-1$ 。

(証明)  $C_1(E^*) = -C_1(E)$ ,  $C_2(E^*) = C_2(E)$  だから  $C_1(E) = -H$  としてよい。 $(1.1)$  の (1), (2) から  $h^0(\mathbb{P}^2, E) = 0, h^1(\mathbb{P}^2, E) = 0$ 。よって Riemann-Roch の定理により  $-h^2(\mathbb{P}^2, E) = \chi(\mathbb{P}^2, E) = r + (C_1(E), 3H)/2 + (C_1(E)^2 - 2C_2(E))/2 = r - 1 - C_2(E)$ 。ゆえに  $C_2(E) \geq r-1$ 。

Maruyama により  $\mathbb{P}^2$ 上の rank 2 の  $H$ -stable ベクトル束について次の事が知られている。

“ 整数  $n \geq 1$  と  $\mathbb{P}^2$  の直線  $\ell$  に対して  $\mathbb{P}^2$  上の rank 2 の  $H$ -stable ベクトル束  $E$  が存在して、 $G_1(E) = H$ ,  $G_2(E) = n$  であり、さらに  $E|_{\ell} \cong \mathcal{O}_{\ell}(-n+1) \oplus \mathcal{O}_{\ell}(n)$  ” ( $\mathcal{O}_{\ell}(n)$  は  $\ell$  上の直線束で次数  $n$  のもの)

この事実とあとで示す補題を使うと次の定理が容易に証明できる。

定理3  $n \geq r-1 \geq 1$  を満たす ~~整数~~ 整数  $n, r$  と  $\mathbb{P}^2$  の直線  $\ell$  に対して  $\mathbb{P}^2$  上の rank  $r$  の  $H$ -stable ベクトル束  $E$  が存在して  $G_1(E) = H$ ,  $G_2(E) = n$  であり、さらに  $E|_{\ell} \cong \mathcal{O}_{\ell}(-n+1) \oplus \mathcal{O}_{\ell}(n-r+2) \oplus \sum_{i=2}^{r-2} \mathcal{O}_{\ell}(1)$ 。

上で得られた  $E$  に関して、(1)  $E(t)$  は ample  $\Leftrightarrow (G_1(E(t)), H) \geq -\frac{1}{2}\Delta(E) + \frac{1+r}{2}$  (2)  $E^*(t)$  は ample  $\Leftrightarrow (G_1(E^*(t)), H) \geq -\frac{1}{2}\Delta(E) + \frac{(-1+2r)(3-r)}{2}$  が成立する。(1) は定理1により、(2) は  $E(t)|_{\ell}$  及び  $E^*(t)|_{\ell}$  を見ることで容易にわかる。

補題(3.2)  $E$  を  $\mathbb{P}^2$  上の rank  $r$  の  $H$ -stable ベクトル束で  $G(E) = H$  なるものとする。次のベクトル束の完全列

$$0 \rightarrow \mathcal{O}_{\mathbb{P}^2} \rightarrow E' \rightarrow E \rightarrow 0 \quad (*)$$

が分解しなければ、 $E'$  は  $H$ -stable ベクトル束である。

(証明)  $F \neq 0$  を  $E'$  の部分層で rank of  $F < r+1$ 、 $E'/F$  が

torsion free なるものとする。  $C_1(E') = H$  であるから  $(C_1(F), H) \leq 0$  を示せばよい。  $L = F \cap \mathcal{O}_{\mathbb{P}^2}$ 、  $F'$  を  $F$  の  $E$  における像とすると  $0 \rightarrow L \rightarrow F \rightarrow F' \rightarrow 0$  は完全列。ところで  $(C_1(L), H) \leq 0$ 、  $(C_1(F'), H) \leq 1$  であるから  $(C_1(F), H) \leq 1$ 。よって  $(C_1(F), H) \neq 1$  を示せばよい。そこで  $(C_1(F), H) = 1$  としてみる。すると、  $L = (0)$ 、  $\dim \operatorname{supp}(E/F') \leq 0$  でなければならぬ。(\*) は分解していないのだから  $E/F' \neq (0)$ 。そこで完全列  $0 \rightarrow \mathcal{O}_{\mathbb{P}^2} \rightarrow E'/F \rightarrow E/F' \rightarrow 0$  を考える。任意の整数  $m$  に対して  $H^0(\mathbb{P}^2, (E/F')(m)) \neq (0)$  であり、  $H^1(\mathbb{P}^2, \mathcal{O}_{\mathbb{P}^2}(m)) = (0)$  である。ところで  $E'/F$  は torsion free であるから充分小さな整数  $m$  に対しては  $H^0(\mathbb{P}^2, (E'/F)(m)) = (0)$  である。これは矛盾。

### 参考文献

- Nakai, Y., A criterion of an ample sheaf on a projective scheme, Amer. J. Math., 85 (1963) 14-26.
- Atiyah, M. F., Vector bundles over an elliptic curve, Proc. Lond. Math. Soc. (3), 7 (1957) 414-452.
- Hartshorne, R., Ample vector bundles on curves, Nagoya Math. J., 43 (1971) 73-89.
- Hosoh, T., Ample vector bundles on a rational surface, Nagoya Math. J. 59 (1975) 135-148.

Maruyama, M., On a family of algebraic vector bundles, *Number Theory, Algebraic Geometry and Commutative Algebra*, in honor of Y. Aizuki, Kinokuniya, Tokyo, (1973) 95-146.